

学校関係者向け広報活動  
－東京都小学校社会科研究会による東京港体験乗船等－

当協会は、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。特に教師・児童など学校関係者向けには積極的かつ地道な活動を継続しており、この一環として、小学校教師で構成される社会科研究会を対象に、関連団体等とも連携し、海運関連施設の見学会等を実施しています。

今般、7月31日（月）に、石油連盟と共催で、東京都港湾局や東亜石油の協力を得て、東京都小学校社会科研究会を対象に見学会を実施し、34名の小学校教師が参加しました。

当日は、まず視察船「新東京丸」に乗船し、埠頭・港や海運の役割などの説明を受けながら東京港（竹芝－青海）をクルーズしました。船上からは、コンテナの積み降ろしを間近に見ることができたほか、運航するコンテナ船の真横を通るなど、ダイナミックな光景に先生方からは歓声があがりました。



その後、東京臨海部広報展示室「TOKYO ミナトリエ」を訪問（コンテナ船の真横を通過する新東京丸）し、当協会から海運の重要性（海運と我々の生活が密接な関係にあるなど）に関する講演を行った後、同館館長の案内のもと、海運や港に関連したジオラマ展示やAR映像などが設置された館内を見学し、江戸時代より海運が産業や人々の暮らしを支えてきた歴史を振り返りました。また、同館からは東京港の大井及び青海コンテナターミナルや航行するコンテナ船、RORO船など様々な船を一望することができました。

最後に、東亜石油「京浜製油所」を見学し、同施設で精製される原油の多くは船によって輸送されているなどの説明があったほか、実際に原油を輸送するタンカーを見ることもできました。

参加した先生方からは、「貿易量の99%以上は船で運ばれているときいて生活が海運によって支えられていることを初めて知った」「従来の社会科見学は工場などで行われることが多かったが、体験乗船という選択肢が増え、授業に取り入れたい」などの感想が寄せられました。

見学会を通じて、先生方に「海運」について認識していただき、授業で海運の重要性を児童と一緒に考えていただくことを期待するとともに、今後も積極的に学校関係者向けの広報活動に取り組んでまいります。



（「TOKYO ミナトリエ」を見学する教師および同施設から見ることのできるコンテナターミナル）